

ComPASSの開発について

中国運輸局交通環境部

○ ComPASSとは

中山間地での過疎化や高齢化、民営バス事業者の撤退、市町村合併に伴うバス路線の再編など地域の公共交通が置かれている環境が大きく変化する中、自治体によるバス運行計画や運行管理の必要性が増えています。

このような状況に対応するため、中国運輸局では、産・官・学の連携により、市町村の交通計画を策定する方々を支援するソフト「バス運行計画策定支援ソフト ComPASS」(Community-bus Planning Aid Simulation System)を開発しました。

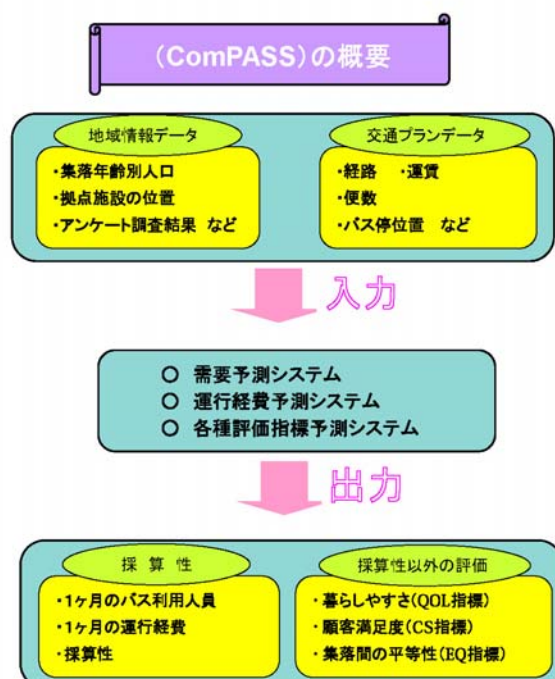
このソフトは、地理情報システム(GIS)を活用して「採算性」と「採算性以外の評価指標(暮らしやすさ、顧客満足度、平等性)」の合計4つの指標に基づき、市町村が策定するバスの運行計画を評価するシステムです。

希望する自治体に対し無償提供を行っており、現在すでに33都道府県70の自治体に配布しています。

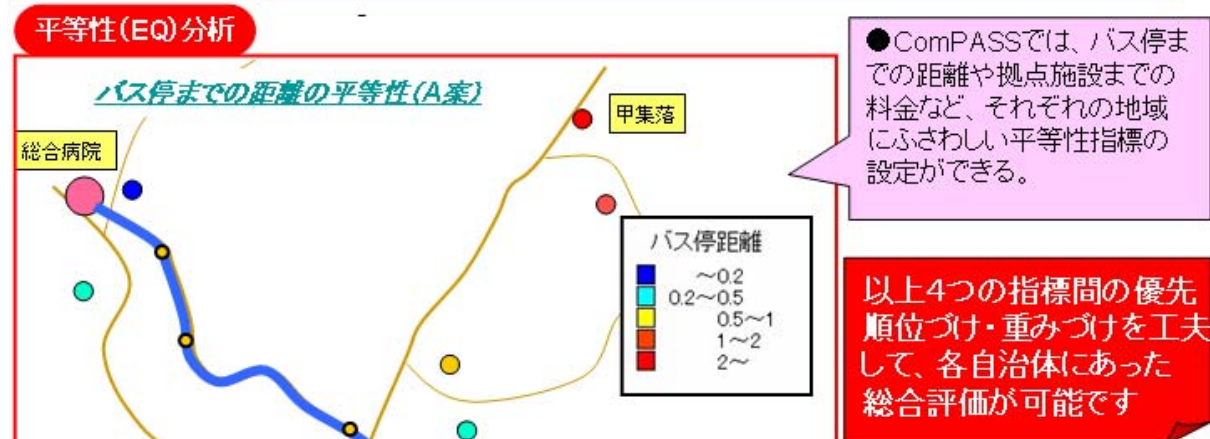
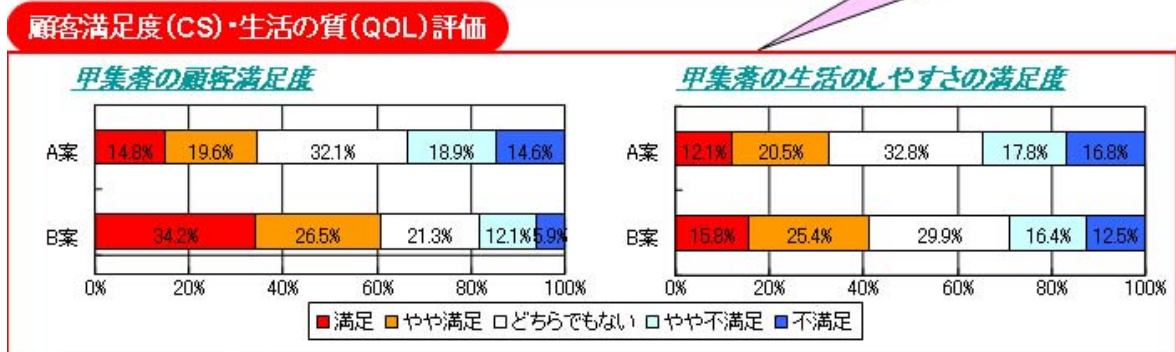
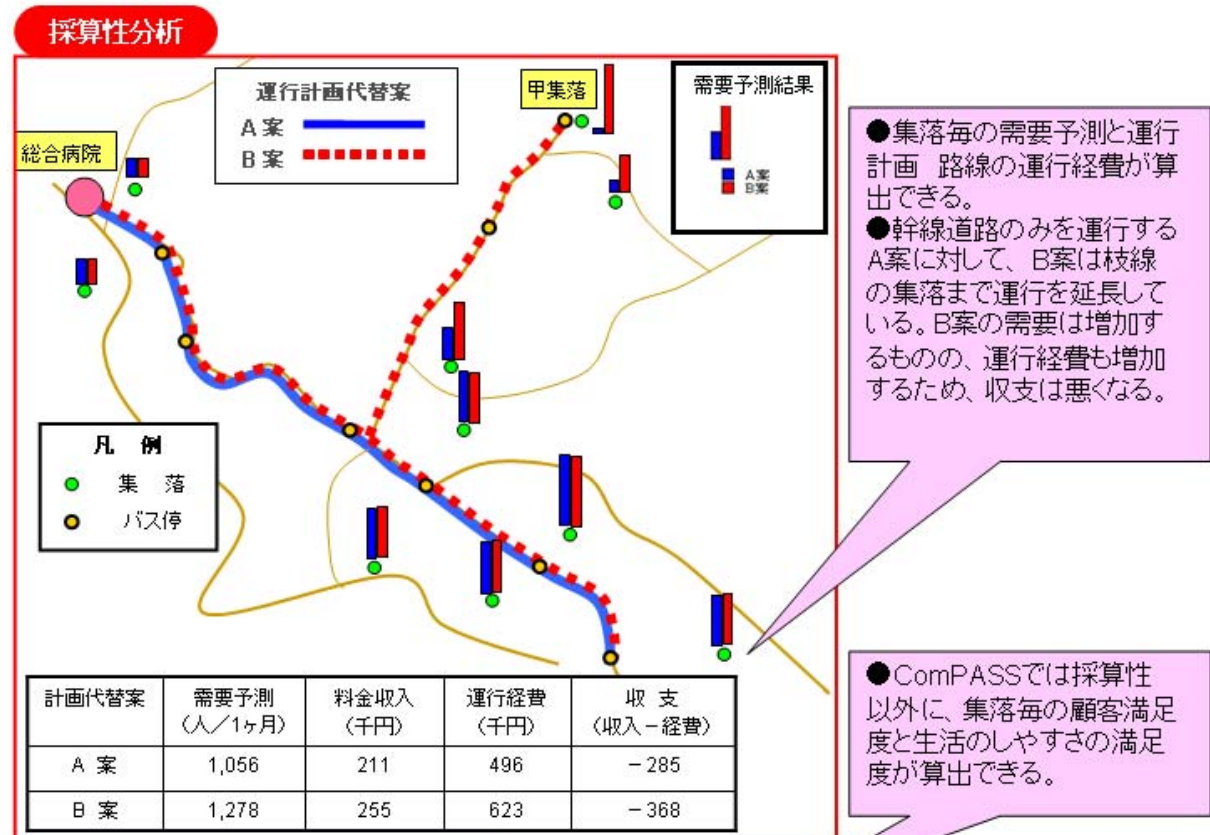
○ 概要

高齢者等の生活交通確保と言う観点から以下の4つの指標でバスの運行計画案を評価します。

- ①採算性 (PR指標) : 需要予測と運行経費を算出し評価
- ②暮らしやすさ (QOL指標) : 満足度を5段階評価
- ③顧客満足度 (CS指標) : 交通サービスに対する満足度を5段階評価
- ④平等性 (EQ指標) : 集落間の平等性を評価



○ ComPASS 適用例



○ 開発経緯

- ・ 平成14年度からシステム開発を始め、島根県雲南市・飯石郡飯南町をモデル地区に選びシステムを構築
- ・ 平成16年度から配布を開始(その後も対象モデル地区を追加)
- ・ 中心地等に市街地を含む地区、都市近郊住宅団地に対して適用可能となるように機能を拡張
- ・ 配布自治体からの意見・要望を取り入れ、操作性の向上等システムを改良
- ・ 平成19年度、分析実施地区から地域特性別標準データを抽出し、類似の地区が容易に分析出来るようシステムに組込

○ 講習会等の実施

中国運輸局ではこれまで様々な機会を利用し、本ソフトの普及展開を図っています

- 平成17年3月10日～11日 自治体職員等を対象(35名参加)
- 平成17年12月8日～9日 自治体職員、事業者、コンサルタント等を対象(約50名参加)
- 平成19年10月4日～5日 自治体職員を対象に合宿講習(四国、九州、関東地方などから60名参加)
- 平成19年12月13日 コンサルタント等を対象に研修(全国から40名参加)
- 平成20年11月12日～13日 自治体職員を対象に合宿講習(全国から54名参加)



H19.12.13 研修会



H20.11.12～13 合宿講習会

○ 今後の展開

自治体担当者等が自ら分析を行う場合、容易に精度が高い分析が行えるよう、これまでの分析実施地区からの「地域特性格標準データ」の抽出・蓄積を継続していきます。

また、公共交通活性化勉強会等各種講習会の開催を通してComPASSの活用方策等の説明を行い自治体への普及展開を図ります。

なお、海上交通においても路線バスと同様、構造的な経営悪化によるサービスの大幅切り下げ、航路廃止の危機にあることから、今後、海上交通の再編等が必要となることが予想されます。このため、現在、中国運輸局では海上交通サービスの再構築・活性化のための計画策定を支援するソフトを開発しています。

ComPASS紹介HP

<http://www.cgt.mlit.go.jp/>から消費者行政コーナーをご覧ください